



2018年11月で40年寿命を迎える 「東海第二原発」 審査加速 さらに20年運転延長を射程に入れた動きか？



運転差止住民訴訟

4/21、2016年度原告団総会にて 「この2年が山場、地域に働きかけ」活動方針を決定



「二度と子どもたちを被ばくさせない」「福島の人々の苦難を共にし、救済補償を」との思いで起こした東海第二原発の運転差止訴訟は4/21、第13回弁論期日を迎え、「裁判官は福島のとにかえしのつかない被害の実態をその目でその身体で確かめてからでないと判決は書かせない」と裁判所に「福島現地検証」を申し立てました。

裁判に先立って原告団の2016年度総会が開催され、「二度と福島を災禍を起こさせないために、老朽原発・被災原発である東海第二は40年をもって終わりにさせよう。40年寿命を迎える2018年までの2年間は山場になる。裁判で明らかになったことを地域住民や自治体に伝え廃炉を訴えよう」と活動方針を確認しました。(原告団事務局・常総生協)

常総市水害に頂いた支援のバトンを熊本へ

4/23 ~ 26 生協として物資・ボランティア派遣
4回にわたってレポートします。

- (1) 生協からボランティアセンター到着まで
- (2) 避難所への物資提供①
- (3) 避難所への物資提供②
- (4) まとめ、感想



熊本地震発生を受けて、生協でも支援の窓口を協同推進室とし、何が出来るだろうか検討しました。被災地が遠いため、そしてちょうど春の組合員拡大月間に入ったばかりで、生協でも義捐金にとどめるかどうか議論がありました。

しかし、常総市水害の時もいち早く岩手から水を積んでトラックで駆け付けてくれた岩泉のみなさんや、東北の仲間の生協さん、そして常総市の災害の現場で全国から多くの支援のみなさんが来てくれていたことで、どれだけ現場が助けられ支えられたことか・・・

休日を返上して業務に支障が出ない範囲で支援に行こう、物資を運ぼうとなりました。

常総市の水害支援でワーカーズユープらばやフードバンクちば、そして常総市で足湯隊を展開してくれた「RQ 市民災害救援センター」(RQはレスキューの略。東日本大震災の被災者支援のために発足した市民団体)とつながりができていたことから、現地情報を交換し、「RQ 九州」のボランティアセンターが南阿蘇市・益城町に接する宮崎県



【経緯】

- 4月14日(木) 21:26 M6.5 震度7の地震発生
- 16日(土) 01:25 M7.3 震度6強の本震発生
- 18日(月) 常総生協震災支援対策窓口を設置(協同推進室)
- 20日(水) 業務会議内にて支援内容を討議
- 21日(木) 支援物資輸送と支援募金呼びかけを確定。News号外発行。HP改訂
- 23日(土) 支援物資輸送トラック出発
- 24日(日) 愛媛県西予市明浜 無茶々園にて支援物資追加。宮崎県五ヶ瀬町 RQ九州到着、支援活動打ち合わせ
- 25日(月) 五ヶ瀬町出発。熊本県甲佐町(乙女小学校)、富合町(熊本市立富合小学校、熊本市立富合中学校)城南町(熊本市立隈庄小学校)、熊本市南区(熊本市南区)へ支援物資輸送、被災者ヒアリング。同夜、現地出発
- 26日(火) 18:40 生協到着

の五ヶ瀬町に立ち上がり支援がはじまったことを聞き、共に常総市の支援に取り組んだ仲間と相談し、ここを拠点に熊本支援に入ることとしました。



物資搬送を本格化 五ヶ瀬などの有志団体

宮崎日日新聞

2016年4月23日

地震の被害が続く熊本県を支援しようと、五ヶ瀬町などの民間有志が立ち上げた団体「RQ九州」が活動を本格化させている。拠点としている岡町の体育館・Gドームには全国から紙おむつやインスタント食品などが次々と運び込まれ、被災地へ送り出す作業に追われている。



○4/23夜、生協発

現地からの要望のあった医療品・日用品に加えて、魚住農園からは、少しでも良い状況で被災地に届けてと、出発直前に収穫した野菜と新鮮な卵をたくさん戴き、生協の2トントラックに積み込みました。



「物資輸送部隊」は常総生協職員2名、ワーカーズコープちば職員1名、計3名による物資も含めた混成チームで夜8時出発。



夜間の高速を西に走り、明け方に淡路島を經由して四国を横断。

○翌朝10時に無茶々園着

四国の八幡浜からフェリーに乗って大分臼杵港へ上陸して熊本へのルート予定。

八幡浜に近い明浜の無茶々園から「立ち寄って少し休んでいけ」と。

狩浜に続く峠からのすばらしい眺望にひと時疲れを忘れました。



○たくさんの果実を用意して待ち構え

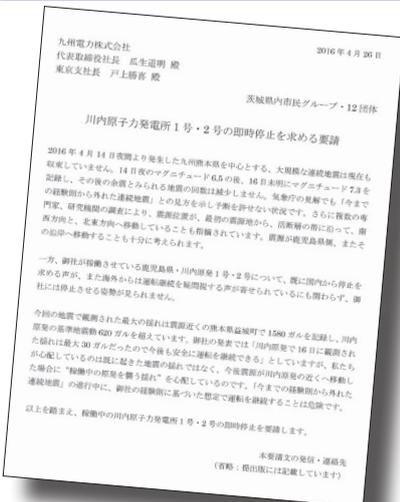
無茶々園宇和事務所に着くと、大津代表が待ち構えていて、「地域行事でいっしょに行けないけど、被災地のみなさんに少しでも元気をつけてもらえたら」と、たくさんの果実とジュース、そしてお年寄り用に皮むき器まで用意してくれていて、みかん農家生産者も駆けつけてくれ、いっしょに生協のトラックに積込みました。



こうして八幡浜港からフェリーで大分県・臼杵港へ渡り、一路、熊本との県境の宮崎県五ヶ瀬町のボランティアセンターをめざしました。
(榎本・伊藤)



茨城県内市民グループ12団体で九州川内原発・四国伊方原発即時停止を要請



脱原発ネットワーク茨城の小川さんらの呼びかけで茨城12市民団体は、九州の連続地震で活動層の帯に沿って震源が移動する恐れがあることから、九州の川内原発の即時停止、四国の伊方原発の再稼働計画を中止するよう九州電力、四国電力に連名で要請しました。

